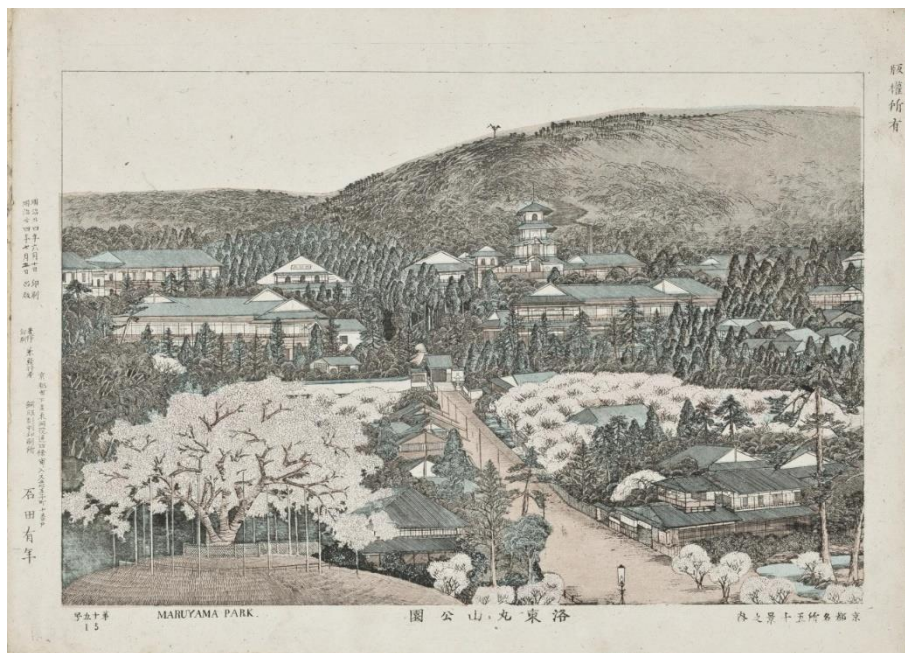


京都名所五十景



京都名所五十景第 15 号「洛東丸山(ママ)公園」より

桜の名所、円山公園は、明治 19(1886)年に誕生した京都市内で最も古い公園です。江戸時代以前は安養寺の敷地で、寺号の慈円山を略して円山と呼ばれていたことが名称の由来となりました。

この『京都名所五十景』は、明治期に活躍した銅版画師、石田有年の作品で、明治 28 年の第 4 回内国勸業博覧会に出品されたものです。

画面右上の三層の楼閣を持つ建物は、殖産興業に尽力した明石博高が明治 6 年に開業した吉水温泉で、その前に立ち並んでいる建物は、京都で最初の洋風ホテルである也阿弥(やあみ)ホテルです。也阿弥は、六阿弥坊と呼ばれた安養寺の 6 つの塔頭のひとつで、これらの塔頭は、江戸時代に旅館や料亭を営んでいましたが、文明開化の波に乗り、長崎県

人の井上万吉が元の旅館を洋風ホテルに改装して明治12年に開業したものです。しかしこのホテルは、明治32、39年の二度の火災により姿を消します。

円山公園はその後、小川治兵衛により日本庭園が整備され、現在の姿になりました。なお、ここに描かれている枝垂桜は、昭和22(1947)年に枯死し、現在は2代目の枝垂桜が花見客を楽しませています。

([「総合資料館だより」No.171](#)(2012年4月1日)より修

正・転載)

(2017年4月1日公開)